

## 令和4年度 1学期始業式

みなさん、初めまして、校長の藤井です。4月1日に着任しました。

ご挨拶代わりに、短いお話を2つします。

1つめは「プラスはどこから生まれる？」という話です。

そうです、記号のプラスの話です。

みなさんは、プラスの記号を書くとき、縦棒と横棒のどちらから書き始めますか？

訊くまでもなく横棒だと思います。

横棒を書いてから縦棒を書き加えます。その結果プラスという記号になるわけです。

勘の良い人は、私の言いたいことがもうわかってしまったかもしれません。

そのとおりです。

プラスはマイナスからしか生まれません。

1年生は不安だらけ、中学時代は、みんな学校で一二を争う優秀な成績だったと思います。

しかし、高校に入学したら「上には上がいる」ことを思い知ることになるかもしれません。

しかし、心配は要りません。プラスはマイナスからしか生まれません。

一旦へこむというマイナスは、プラスを書く準備です。

第一、人間の値打ちは、1回の試験で測れるほど薄っぺらなものではありません。

一喜一憂せず、状況を冷静に捉えて努力を継続できる人が、最後に笑う人だと思います。

上級生も同じです。

受験勉強でも部活動でもスランプはあります。

そんな時こそ今日のお話を思い出してください。

マイナスが書けたら、後は縦棒を1本足すだけです。

諦めないこと、目標を変えないことが何より大事です。

2つめの話は、みなさんと一緒に実験をしながら聴いてもらいます。

まず、人差し指を空に向けて頭より高いところに掲げてください。

次に、その指を「時計回り」に回転させてください。

全員「時計回り」になっていますか？確認してください。

確認ができたら、回転を止めずに、その指を自分の胸の前まで降ろしてください。

さて、ここで問題です。

今、あなたの指は「時計回り」に回っていますか？それとも「反時計回り」ですか？

ご苦労様です。これで実験は終わりです。

あなたの指は全く同じ動きを繰り返していただけなのに、あなたの目の位置、即ち視点が変わっ

ただで、正反対の動きをしているように見えましたよね。  
指を「あなたが今抱えている課題や不安」だとしましょう。  
今のあなたの視点で考えれば、その課題はとんでもなく大きくて、その不安は抱えきれないくらい重いかもしれませんが、ちょっと視点を変えれば、実は案外ちっぽけなものかもしれません。課題や不安にひとりで立ち向かう必要はありません。  
三国丘高校には、みなさんを支える先生がたくさんいます。  
私もその一人になりたいと思っています。

私は、5日に行われた入学式の式辞でこんなことを言いました。

「私は、校長として、今日からあなた方を我が子だと思ふことにします。親の心で、叱る時は叱り、褒めるときは思いっきり褒めたいと思います」

この言葉を今、2年生にも3年生にも贈ります。

校長室は、保健室の前です。

褒めてほしい時や叱ってほしい時、遠慮なくドアをノックしてください。

みなさんと一緒に、三国丘高校での毎日を楽しみたいと思います。

最後に、心が張り裂けそうな報道に溢れ、コロナ禍も終息の兆しささえ見えませんが、三国丘高校の令和4年度が、明るく元気で、心豊かなものになることを祈念して、式辞とします。